

会議総括「新潟アピール」

2009 日露エネルギー・環境対話イン新潟

- 対話の継続。究極の目的は相互信頼である。

日口交流の経験とエネルギー利用技術が蓄積された新潟から、日口協力対話の成果をアピールする意義は大きい。このような場で培われる日口相互信頼は、これからのエネルギー・環境協力のみならず、地域社会への協力、ひいてはすべての日口交流の大きな推進力となる。

- 対話の拡大。北東アジアエネルギー共同体の形成に向けた努力を。

北東アジア交流を推進してきた新潟から、この会議の成果をアピールする意義は大きい。東アジアおよびアジア太平洋は、地球規模のエネルギー・環境問題のカギとなる地域であり、この日口協力対話を基礎として、まず北東アジアのエネルギー・環境協力に向けて議論の輪を広げる必要がある。

- エネルギー供給能力の拡大、安定供給の実現は日口共通の課題である。

ロシアはエネルギー供給国として、日本はエネルギー需要国として、極東・東シベリアのエネルギー開発プロジェクトの実施、エネルギー供給能力の拡大、安定供給の実現は、日口双方に利益をもたらす。中央と地方、官と民、それぞれが応分の役割を果たしながら、果実を確実に還元できる仕組みを整えていかなければならない。

- 地球温暖化防止に貢献する日口協力、地方交流を深めたい。

メタンハイドレートなど新しいエネルギーの開発、エネルギーの高効率利用、温室効果ガス削減などのイノベーション分野でも、日口協力のポテンシャルは極めて高い。新潟県における低炭素社会に向けた取り組みに見られるように、エネルギー分野におけるイノベーションは、技術開発にとどまらず、地域社会に技術を普及させるプロセスを含むものである。その意味で、地方政府（自治体）の役割は大きく、ロシア極東で始まる地域のガス化や電源の分散化などは、これからの日口地方交流にとって大きな柱の一つとなる。

両国政府、自治体、民間各層が今後、これらの取り組みを積極的に進めるようアピールする。